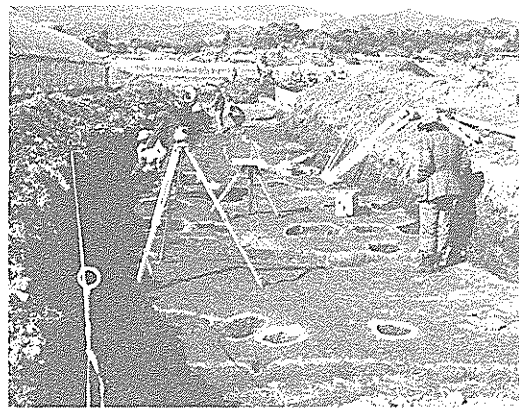




「土佐」役所跡を確認 比江の国衙跡で発掘調査

「土佐国衙跡発掘調査」は、二月十三日から三月一日まで、比江神ノ木（紀伊之郡跡の南約四百メートル）で行われました。

この発掘は、市道拡幅に伴い緊急に、市教育委員会が県教育委員会の協力や岡本健児高知女子大教授らの指導によって実施したもので、幅四メートル、長さ五十メートルの範囲を約一メートル掘り下げて行われた調査では、①中世名主層の邸跡の発見、②国衙関係の柱穴の発見、③等間隔で並ぶ大きな柱穴十六基を発見。これら柱穴から、平安中期（十一世紀）と平安後期（十二世紀）の二期の建造物が推定でき、双方とも発掘区域が狭いため開口は不明ですが、前期分が奥行き三間（約五・四メートル）、後期分が奥行き二間（約三・六メートル）の建物とわかってきました。

また、これらの時代判定資料として、柱穴などから約二百点の須恵器、土器類が出土しました。

なお、平安後期の建物は、土器溜から食用用セト品が多量に出土したこと、国衙の「厨（台所）」の一部と推定されること、以上が主な成果ですが、これらのことから岡本教授らは次のような発掘調査のまとめを発表。

「今回発見された柱穴は、大きな並び方、出土土器による時代から国衙関係のものとして正式に発掘したもの本県で最初。また、国衙における初期、いわゆる奈良、平安初期（律令体制盛時）の遺物がみられないことにより、今回発見された国衙は律令体制の弱体化以後の国衙に属したものでないだろう。」

比江には国衙関係の「国庁」「府中」などの小字が現在も残っています。

次に、木材団地がきた場合に予想される公害問題とその対策が発表されました。

「予想される公害とその対策」

騒音 団地の周囲に芝や木を植えて法の規制以下に抑えるので公害はないと確信する。

煙害 大量にできる鋸屑、木皮などは、農業用として運び出すため燃焼量はごく少量となる予定なので煙害は考えられない。

粉塵 帯鋸機に取りつけた集塵装置で槽に入れるが、今まではこの槽からあふれた鋸屑が大気中にとぶため苦情があったが、企業責任で万全を期します。

排水 降雨期をさけて整備し、九十音を東側で処理するが、万一の場合を考えて泥溜池を設置する。西側左右山川までの水路は市で整備し、万全を期す。団地造成後は、排水出口にスクリーンを設けて水屑類の流出を防ぐ。油や汚水の流出防止のため小型浄化そうで浄化流出さす。

「木材団地」は、製材業十三社、家具等本製品製造業七社の計二十社（全部県内企業）で構成し、将来土佐実業生産の発祥地をめざす。販売は、共設の物流センターに展示し県内外の消費者に直接行う。十ののうち、道路、公園、調整池、土羽、擁壁、排水路などで約一、残りが工場などとなる予定です。

これに対する地元の見解は、木材団地計画は市がタッチしているのでしょうか。

「私たちは、運動場がまず実現され、次に木材団地の検討がされなければならぬと思うが、市の相談は逆ではないでしょうか。」

「木材団地の位置の変更を検討してください。」

「運動場がたつた一歩とはあきれるばかりだ。そしてその場所もはつきり図示できないとはどういうことでしょうか。」

「計画は県の多くの窓口で検討されたものであり信頼しているの、直接市はタッチしていない。」

「財政の破たんは市政の致命傷なので、どうしても財政の健全化をはからなければならぬと思う。重ねてみなさんのご期待に添えなかつたことをお詫びするとともに、運動場の必要ことはよくわかっていてつくりたいので今後の行政課題としてよく認識しておきます。」

「位置の変更は基本的には考えていません。」

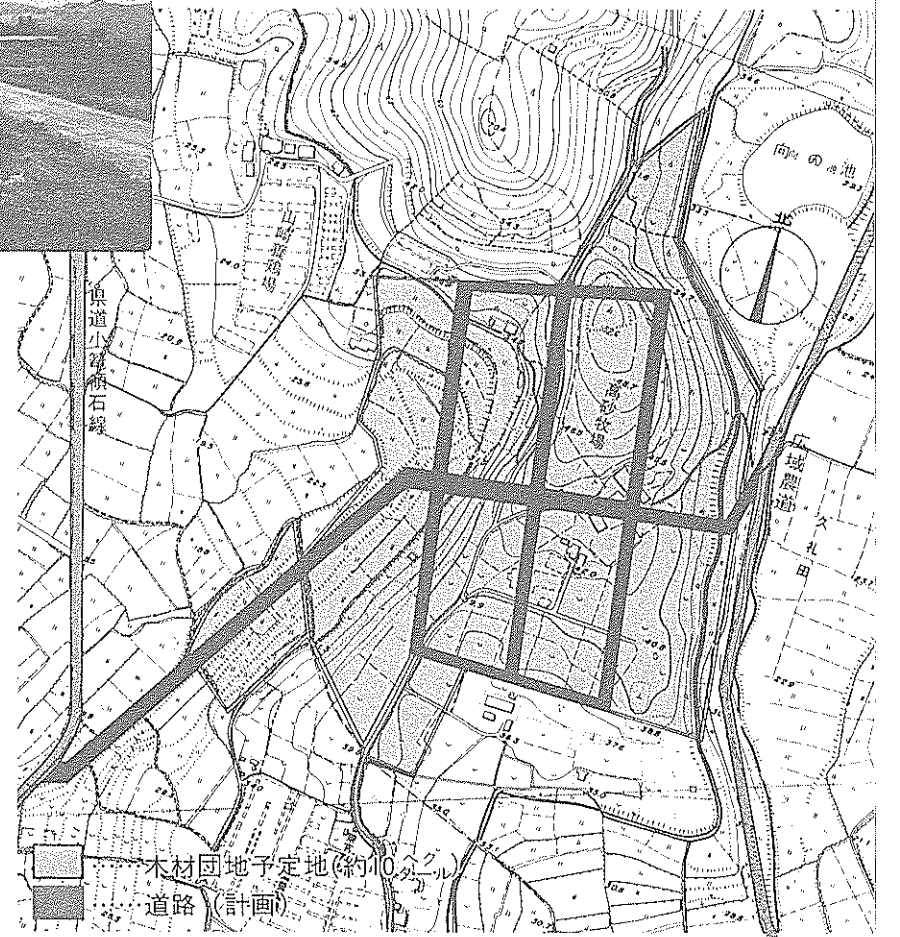
「私有地と隣りあわせの土地なので、その方に迷惑にならないよう努めなければなりませんので、ここではつきり図示はできません。最後に、前回同様谷津代さんがとわかりました。」

「今回の発掘は、府中の地域に近い。この点から、国庁」付近には奈良、平安前期の国衙が包蔵され、今回発掘された国衙関係の遺構は平安中期から後半にかけてのいわゆる「府中」に属したものでないだろう。」

「土佐の国衙」は、また小部分的な発掘で危険であるが、盛時の国衙と衰退期の国衙の位置が異なるのではないだろうか。」

今回の発掘調査は、国衙関係のものとして、五十一一年一月、五十四年一月（いずれも県教委に統一して三回目の調査。市教育委員会では「今回の調査で、この地が土佐の国の「役所跡である」ことが確認された。来年度（五十四年四月）から、県が国の補助を得て、「国庁」周辺を本格的に確認調査する予定です。」と話していました。

《北部運動公園》



「木材団地」実現へ協力要請

第2回 説明会
納得できるあらゆるデータを
一月七日の第一回目に続いて三月三日、北部運動公園予定地」についての「木材団地」の実現に対する地元の理解と協力を求めました。

府地区で開かれ、市側はかねて「木材団地」の実現に対する地元の理解と協力を求めました。

「木材団地」は、製材業十三社、家具等本製品製造業七社の計二十社（全部県内企業）で構成し、将来土佐実業生産の発祥地をめざす。販売は、共設の物流センターに展示し県内外の消費者に直接行う。十ののうち、道路、公園、調整池、土羽、擁壁、排水路などで約一、残りが工場などとなる予定です。

「木材団地」は、製材業十三社、家具等本製品製造業七社の計二十社（全部県内企業）で構成し、将来土佐実業生産の発祥地をめざす。販売は、共設の物流センターに展示し県内外の消費者に直接行う。十ののうち、道路、公園、調整池、土羽、擁壁、排水路などで約一、残りが工場などとなる予定です。

「木材団地」は、製材業十三社、家具等本製品製造業七社の計二十社（全部県内企業）で構成し、将来土佐実業生産の発祥地をめざす。販売は、共設の物流センターに展示し県内外の消費者に直接行う。十ののうち、道路、公園、調整池、土羽、擁壁、排水路などで約一、残りが工場などとなる予定です。